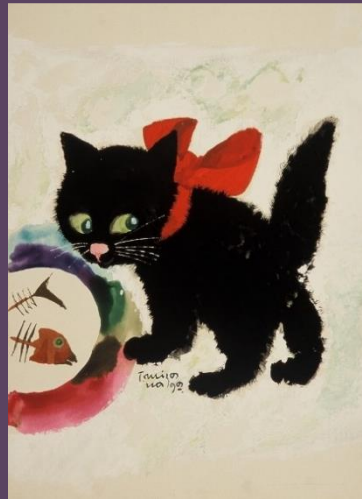
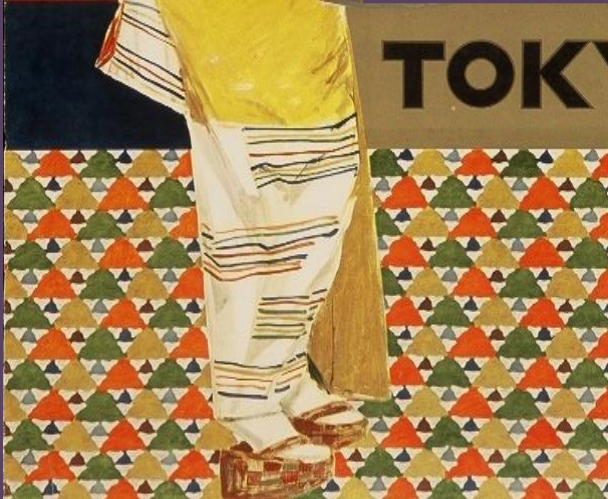
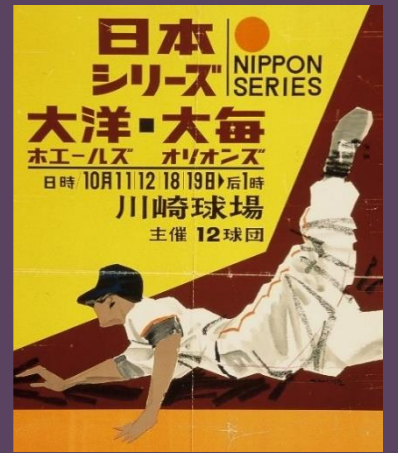




たまゆら 昭和を想う

令和 3/16 (水)
4年 9/25 (日)



秦野市立宮永岳彦記念美術館

| 開館時間 | 10:00~19:00

(入館時間は18:30まで)

| 休館日 | 月曜日(祝日の場合は翌日)

| 主催 | 秦野市

| 観覧料 | 一般 300円

(隣接する「弘法の里湯」をご利用の方は200円)

高校生以下、障害者手帳をお持ちの方と介護の方1名は無料

| 協力 | ペンてる株式会社 小田急電鉄株式会社

たまゆら 昭和を想う

令和4年 3/16(水) ▶ 9/25(日)

「たまゆら（玉響）」とは、少しの間、ほんのしばらくという意味の大和言葉です。喧騒を忘れ、この小さな美術館でほんのひととき心と時間を過ごしませんか？本展ではレコードジャケットを中心に、庶民の娯楽、暮らし、ファッションと大衆的で親しみやすい作品を展示し、ノスタルジックな昭和の世界へいざないます。

洋画家・宮永岳彦（1919～1987）は、純粋絵画のほか、数多くの商業デザインを手掛けましたが、レコードジャケットもその一つです。一瞬にして記憶が蘇るほど魅力的に描かれたオードリー・ヘップバーンや美空ひばり。珠玉の映画と美しいジャケットは、遠い昔の思い出を彩ります。大衆に寄り添い、人々の日常や暮らしを描いた作品はどこか懐かしく、時空を超えて在りし日の昭和が偲べれます。また、戦後の復興期に描かれた都会の洗練された女性は、斬新で今なお色褪せることはありません。

宮永は「鑑賞する人々に静かで穏やかな安らぎを与える一種の精神安定剤のような絵であってほしい」という信念のもと制作活動をしました。不安な日々を過ごす今だからこそ、そんな宮永の作品は私たちの琴線に触れるのではないのでしょうか。たまゆら昭和に想いを馳せ、至福の時をお過ごしください。



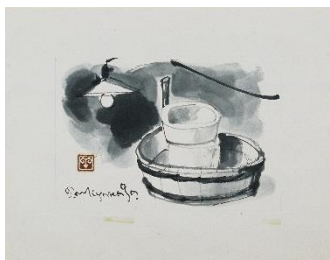
《テナーサクソによる流行歌史第2集》
レコードジャケット原画 制作年不明



《銀座の午後》油彩・キャンバス
1950年



画題、制作年不明



《家の光》



《Invitation to screen and popular music》
レコードジャケット原画 1969年



《髪》油彩・キャンバス 1984年

宮永岳彦（1919～1987）

「光と影の華麗なる世界」と称される美人画で知られる宮永岳彦は、父親の転勤のため静岡県磐田郡（現在の磐田市）で生まれ、名古屋市立工芸学校に学びました。2度の兵役後、実家のある秦野に帰り、松坂屋百貨店銀座店宣伝部に勤務しながら、昭和21年から15年間、秦野市名古木のアトリエで創作活動を続けました。二紀会の設立に参加、昭和54年には日本芸術院賞を受賞、昭和61年には二紀会理事長に就任。油彩画をはじめ、ポスター、童画、表紙画、挿絵、水墨画など多彩な作品を残しました。

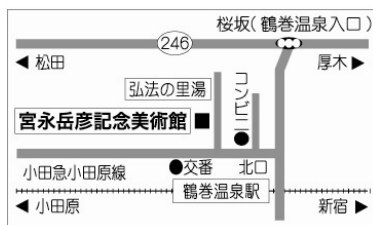
表：左上右下 《Invitation to screen and popular music》1969年
左下 観光ポスター 1954年
真中 《赤いリボンの黒猫》 制作年不詳

右上 《初夏の装ひ》油彩・キャンバス 1951年
右中 日本シリーズポスター 1960年

秦野市立 宮永岳彦記念美術館

〒257-0001 神奈川県秦野市鶴巻北3-1-2
TEL/FAX 0463-78-9100

《隣接》公営日帰り温泉 弘法の里湯 TEL 0463-69-2641



美術館へのアクセス

- ◆ 小田急線 鶴巻温泉駅より徒歩2分
- ◆ 駐車場 弘法の里湯と共用 40台 / 1時間150円 以降30分ごとに100円